



ミュージアム・レター

Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No.8

発行日 ● 平成20年(2008)7月7日

もくじ

ごあいさつ	1
「目白キャンパスの100年」展へのご招待	1
ピラミッド校舎解体見学記	2-3
変化の予兆 ―昭和30年の目白キャンパス図―	4

Information

平成20年度常設展のお知らせ 「目白キャンパスの100年」

平成20年7月22日(火)～10月31日(金)

開室時間／平日12:00～17:00 土曜10:00～12:00

閉館日／日曜・祝日 10月17日(金)

《特別開室日 7月26日、8月2日、8月3日、
9月13日、10月25日…10:00～17:00》

会場／学習院大学史料館展示室(北2号館1階)

入場無料・事前申込不要

1. ごあいさつ

平成20年7月22日(火)から10月31日(金)まで、常設展として「目白キャンパスの100年」を開催いたします。この展覧会は、キャンパスの内と外のその時々様子を写真でかえりみながら、100年を重ねた学習院目白キャンパスの歴史をふり返ってみようという企画です。

本号では、この常設展の内容をより深く理解していただけるような内容の記事を掲載したつもりです。このレターを通じて、当館の展示や活動を身近に感じていただければ幸いです。

(館長 井上勲)

2. 「目白キャンパスの100年」展へのご招待

明治10年(1877)、学習院は神田錦町で教育機関としてスタートし、明治41年8月5日に四谷から現在の目白キャンパスに移転しました。今年が目白キャンパスが開設して100年という節目の年です。そこで、目白キャンパスの歴史を写真パネルでふり返る「目白キャンパスの100年」展を開催いたします。学習院の卒業生・在校生はもちろん、多くの方々に100年の歴史を感じていただく内容です。

写真の中に残された風景や人々の姿は、今と同じだったり、あるいは全く異なっていたりしながら、私たちに過去と現在について、多くのことを伝えてくれます。写真の向こう側にある社会の変化に目を向けながら、「変わること、変わらないこと」について考えてみるのも有意義なことでしょう。

(野尻泰弘)



●正門

正門は明治41年に作られた。写真は昭和22年(1947)の正門で、まだ左側の門柱に「学習院大学」の門標はない。昭和35年度卒業生の寄贈により、同36年4月に安倍能成院長揮毫による「学習院大学」の門標が取り付けられた。写真は「学習院大学の50年 写真と図録」より転載